

新開さんのウクライナ戦争論を読んで

大谷美芳(2022.04.11)

関西ルネ研報告(2022.04.09)の中心は「戦争の性格と我々の立場」。

①……ロシアの侵略戦争であり許すことはできない。

②……だがこれを招いた責任はNATOの東方拡大—欧米にもある。……またウクライナ支配階級の反動的ナショナリズムにも責任がある。

③……本質的に国家資本主義的ロシアと新自由主義的欧米資本主義の……勢力争い、…
…ウクライナをどちらの勢力圏に置くか……である。

⑤…反戦を志向する勢力の国際連帯—現代のチンメルワールド(左派)—を形成…。

①には賛成ですが、②③⑤には大なり小なり反対です。その基になる私の考えは、「ウクライナ戦争と台湾危機を考える」(2022.04.06)にまとめてあります。

1.ウクライナのプロレタリア階級にどう呼びかけるか？ 政権打倒か政権と共闘か？

③から、「アゾフ連隊と闘争しゼレンスキー政権を打倒せよ」ですか？ そうではなく、①であれば、「今は共闘し反侵略・祖国防衛戦争を闘おう」でしょう。

2.ロシア帝国主義の侵略は外因論ではなく内因論で見なくてはならない

②は、米国・西欧のNATO東方拡大やウクライナのブルジョア階級の民族主義に対して、「にも責任がある」と言っています。これは副次的で外因だということです。

では主要な要因、内因は何か？ それが言われていません。崩壊したソ連から引き継いだ資本主義を、資源(石油・ガス)中心に独占資本主義に発展させた(オリガルヒ)。言わば帝国主義の復活。勢力圏拡大と覇権主義は、そこから内発的に発出しています。

ナチス・ドイツ帝国主義と旧日本帝国主義が第二次大戦を引き起こした。ベルサイユ体制下でフランスとイギリスが過酷に抑圧し、「ABCD」(アメリカ・イギリス・中国・オランダ)が包囲した。しかし、これは主因ではありません。主因は、ドイツも日本も基礎・土台にあった独占資本主義でしょう。勢力圏拡大(「生存圏」と言った)はそれに起因した。

3.米国・西欧が援助でウクライナの戦争が欧米資本主義の戦争になる？ それはしない

米国・西欧は戦争できない。軍隊を送れない。戦場で戦争しているのはウクライナです。どんなに軍事援助をしても、それで戦争の性格を変えることはできません。

ベトナムの抗米戦争と中国の抗日戦争は民族解放、20世紀を画しました。帝国主義化していたソ連、あるいは帝国主義の米国・英国から、援助を受けていたが、しかし、そこから、本質はソ連と米国、あるいは米国・英国と日本の帝国主義間戦争とは言えません。

4.歴史は「チンメルワールド(左派)」から進んでいる 第二次大戦を研究し総括する

第一次大戦は100年前です。第二次大戦の「反ファシズム」連合軍は全て帝国主義戦争とは言えません。中国の抗日戦争、ソ連の大祖国戦争、ヨーロッパのレジスタンスなどが存在した。なぜ社会主義へ前進できなかった、どう前進する、と研究し総括すべきです。

5.ソ連崩壊と東欧革命 ウクライナ民族主義は「歴史的に見て積極的意味を持つ」

ソ連崩壊は「『社会主義』体制の崩壊」ではなく、帝国主義の崩壊です。民族独立と主権国家、東ヨーロッパは、ドイツとロシアの二大帝国主義に抗してブルジョア革命を達成した。歴史的前進。それをウクライナは体現し、ロシアは歴史的反動を体現している。

プロレタリア階級の社会主義的ヘゲモニーはなく、ブルジョア階級が指導していて、民族主義の一部は右翼やネオナチかも知れない。しかし、大局は「抑圧民族と被抑圧民族(特に帝国主義段階での植民地主義)の中での被抑圧民族の民族解放」です。(おわり)